

OIE によるCOVID-19 に関するQ&A(仮訳)

【最終更新:2022 年 1 月 31 日】

■ COVID-19 の原因は？

COVID-19 は、SARS-CoV-2 と名付けられたコロナウイルス(CoV)によって引き起こされる病気です。脂質でできたエンベロープを取り囲むスパイクタンパク質が特徴的な「コロナ」(ギリシャ語で王冠の意味)を有することから、コロナウイルスと呼ばれています。コロナウイルス感染症は動物でもヒトでも一般的な感染症ですが、一部の株に関しては動物とヒトの間で伝播する人獣共通感染症です。

ヒトにおけるコロナウイルスは、通常の風邪様の症状から、中東呼吸器症候群(MERS)や重症急性呼吸器症候群(SARS)等の重篤な病気まで幅広く引き起こす可能性があります。詳細な調査の結果、MERS はヒトコブラクダ (dromedary camels)からヒトへ、SARS はジャコウネコ(civets)からヒトへ伝播されたことが証明されています。

2019 年、中国当局により、ヒトの肺炎症例の原因となる病原体として新型コロナウイルスが特定されました。ヒトにおける感染はすぐに世界中に広がり、COVID-19 の流行は世界保健機関(WHO)によってパンデミックと宣言されています。

ウイルスの起源については、まだ調査では特定されていません。ヒトの健康に関する最新情報については、[WHO のウェブサイト](#)を参照してください。

■ 動物はヒトにおけるCOVID-19 の原因となるのか？

現在のパンデミックは、SARS-CoV-2 のヒトからヒトへの伝播によって維持されています。現時点では、SARS-CoV-2 は動物から発生したことが示唆されています。遺伝子配列データからは、SARS-CoV-2 の既知の近縁種はキクガシラコウモリ(Horseshoe Bat)集団内で循環しているコロナウイルスであることが明らかになっています。しかし、今のところ、SARS-CoV-2 の起源を特定したり、中間宿主の関与を含むヒトへの感染経路を説明したりするための十分な科学的根拠は得られていません。

動物における SARS-CoV-2 への感染は、多くの国で様々な動物種において報告されています。これらの感染は、感染したヒトと接触した後に引き起こされたことが示唆されています。ミンク農場で、従業員が感染したミンクに密に接触していた散発的な事例を除いて、動物からヒトに感染したという証拠はほとんどありません。

■ 動物が SARS-CoV-2 に感染することはあるのか？

はい、実験感染や、感染したヒトと接触した場合の自然環境下において、哺乳類の多くの種がウイルスに感受性を示すことが証明されています。また、ミンクからミンクへの伝播や、ミンクから猫への伝播、オジロジカにおける子孫への垂直伝播を含む集団間の伝播のように、自然環境下での接

触により、感染動物が他の動物にウイルスを伝播するという証拠も得られています。

動物の SARS-CoV-2 感染は、動物とヒトの健康、動物福祉、野生動物の保全、生物医学研究にとって重要な意味を持っています。しかしながら、すべての動物種が SARS-CoV-2 に感受性があるわけではないようです。これまでの実験感染研究による知見から、家きん、豚及び牛は感受性がなく、ウイルスを排出しないことが示されています。

ウイルスが進化し続け、新しい変異株が出現するにつれて、SARS-CoV-2 感染及び疾病に対する様々な動物種の感受性に変化が見られる可能性があります。

動物種ごとの感受性に関する最新の情報は、[こちら](#) でご覧いただけます。

■ 動物の SARS-CoV-2 感染は、どのような意味を持つのか？

広範囲の動物種が SARS-CoV-2 に感染し、様々な臨床症状を呈することが確認されていますが、これらの感染は、ヒトからヒトへの伝播による現在の COVID-19 パンデミックの推進力ではありません。

動物における SARS-CoV-2 感染が、ヒトの健康、動物の健康、または生物多様性に重大な影響を与えるという証拠はありません。しかしながら、ヒト-動物-環境のインターフェースで SARS-CoV-2 の潜在的な影響をモニタリングし続けることが賢明です。

野生動物や家畜において SARS-CoV-2 のレゼルボアが確立され、動物衛生や公衆衛生にリスクをもたらす可能性があるという懸念はあります。ミンクとオジロジカは集団レベルでの感染が確認されていますが、動物のレゼルボアが確立されたという証拠はありません。動物がレゼルボアになる可能性や、それによるヒトと動物の健康への影響を評価するには、さらなる研究が必要です。

また、ウイルスが動物への感染を通して進化し、既存の株とは異なる特徴を持つ新しい株が出現する可能性もあります。

動物の SARS-CoV-2 感染をモニタリングし、他のセクター（公衆衛生、野生動物、環境など）と緊密に連携することにより、動物の感染がヒトと動物の健康に及ぼす影響を評価することが可能になります。

各国から OIE に報告された動物における SARS-CoV-2 感染事例に関する詳細は、[こちら](#) をご覧ください。

■ COVID-19 とミンクに関してわかっていることは？

農場で飼育されているミンクは SARS-CoV-2 感染に対して非常に感受性が高く、場合によってはヒトにウイルスを再伝播させることもあります。デンマーク及びオランダでのサーベイランスの結果、

ミンクの集団に持ち込まれた SARS-CoV-2 は、ウイルス変異によって進化を続けていることが示されました。ウイルス変異はヒトへの感染でも起こりますが、ウイルスが新しい種に適応することで、新たな変異が見られる可能性があります。科学的な調査により、SARS-CoV-2 がミンクからヒトに再導入されたことが確認されました。

国際獣疫事務局 (OIE) は、このような事象が公衆衛生に重要な影響を及ぼす可能性があることを認識しています。新しいウイルス株がヒトに導入され循環することで、感染性や毒性が変化し、治療やワクチンの効果が低下することが懸念されます。その全容は依然として不明であり、これらの変異の影響を完全に理解するためには、さらなる調査が必要です。詳しくは、[COVID-19 とミンクに関する OIE ステートメント](#) をご覧ください。

■ SARS-CoV-2 感染が疑われる、または確認されたヒトが動物と接触する場合、どのような予防策をとるべきか？

一般的に推奨される取り組みとして、農場、動物園、動物保護施設などで、ヒトが動物の集団と接触する際には、常に適切かつ効果的なバイオセキュリティ措置が適用されるべきです。COVID-19 ウイルスへの感染が疑われる、または確認されたヒトは、農場、動物園、その他の飼育動物、野生動物を含む動物との密接かつ直接の接触を避けるべきです。

コンパニオンアニマル(伴侶動物)

コンパニオンアニマルが、ヒトでの SARS-CoV-2 感染拡大において疫学的な役割を果たしているという証拠はありません。しかし、動物もヒトもこのウイルスに感染する可能性があることから、COVID-19 ウイルスへの感染が疑われる、あるいは確認されたヒトは、コンパニオンアニマルとの密接な接触を避けて、家庭内の別の人が世話をすることが推奨されます。どうしても世話をしなければならない場合は、衛生管理を徹底し、可能であればフェイスマスクを着用するべきです。COVID-19 ウイルスに感染した飼い主の飼育動物は、その国や地域で適用されるヒトに対するロックダウン時の勧告同様に、屋内で飼育される必要があります。コンパニオンアニマルの福祉を損なう可能性のある措置をとることは正当化できません。

一般的に推奨される取り組みとして、動物の取り扱いや世話の際には、常に基本的な衛生対策を実施する必要があります。これには、動物やその食料、用具に触れる前後の手洗い、キスや動物に舐められること、食べ物の共有を避けることが含まれます。

畜産動物

多頭数が密に飼養されている場合、SARS-CoV-2 に感受性のある畜産動物を扱うことは、さらなるリスクを引き起こす可能性があります。リスク管理戦略は、動物種および動物の飼養様式・管理状況によって異なります。更なる推奨事項については、専用の [OIE ガイダンス](#) を参照ください。

野生動物

幅広い種類の哺乳類が SARS-CoV-2 に感受性を示す可能性があります。OIE は、SARS-CoV-

2 の感染リスクを最小限に抑えるため、野外での野生動物関連業務に従事する人々のための [ガイドライン](#) を作成しました。最近の科学的研究は、北米のオジロジカの集団内での SARS-CoV-2 感染の高い有病率を示しています。ウイルスが野生動物の集団レベルで検出されたのはこれが初めてでした。オジロジカが SARS-CoV-2 のレゼルボアになる可能性があるかどうかを判断し、他の動物や公衆衛生への影響を評価するためにはさらなる研究が必要です。現時点では、オジロジカからヒトへの SARS-CoV-2 の伝播のエビデンスはありませんが、ヒトによるオジロジカ集団へのウイルスの導入は複数回あったようです。人々は、野生動物が飲食したり接触したりする可能性のある人間の廃棄物又は物品を森林地帯に残さないようにすべきです。

■ 生きた動物、生肉、動物製品を販売する市場を訪れる際に、どのような予防策をとるべきか？

SARS-CoV-2 の起源については不明ですが、WHO の勧告に従い、生きた動物、生肉、動物製品を販売する市場を訪れる際には、一般的な衛生対策をとるべきです。

動物や動物製品に触れた後は、石鹸と飲料水で定期的に手を洗い、目、鼻、口を触らないようにしましょう。病気の動物、腐敗した動物製品、市場にいる他の動物(例:野良猫や野良犬、げっ歯類、鳥、コウモリ)、市場内の土壌や建物表面にある動物の排泄物や体液に触れないように注意する必要があります。WHO は、ヒトへの感染を防ぐために、定期的な手洗い、咳やくしゃみをするときに肘で口と鼻を覆うこと、咳やくしゃみなどの呼吸器疾患の症状がある人との密接な接触を避けること、などの標準的な勧告を発表しています。WHO の勧告は [こちら](#) でご覧いただけます。

一般的な食品衛生の取り組みに従って、生の肉、乳、動物製品は、特に、調理されていない食品と調理済みの食品との交差汚染の可能性を避けるために、慎重に取り扱う必要があります。食品衛生および食品安全の原則に従って調理され、提供される健康な家畜由来の肉及び肉製品、ならびに乳及び乳製品は、安全に食することが可能です。

コーデックス委員会は、食品の安全性を確保するための最善の取り組みをどのように適用し、実施するかについて、いくつかの実用的なガイドラインを採択しており、[コーデックス委員会のウェブサイト](#) から参照することが可能です。

■ 各国の獣医当局ができることは？

獣医当局は、公衆衛生当局および野生動物の担当機関と緊密に連携し、ワンヘルス・アプローチを用いて情報を共有し、連携して COVID-19 への対応を行う必要があります。動物衛生当局と公衆衛生当局の間の緊密な連携は、この疾病の影響をさらに特定し、軽減するために不可欠です。

動物衛生当局、公衆衛生当局、野生動物当局、環境、学術界を含むいくつかのセクター間の緊密な連携は、ヒト-動物-環境のインターフェースにおける SARS-CoV-2 の短期、中期、および長期の影響についての理解を深めるために必要です。

一部の国では、獣医当局が、ヒトのサーベイランス及び診断用サンプルのスクリーニングや検査など、公衆衛生対応の中核的機能を支援しています。COVID-19 に対する公衆衛生対応への獣医診断施設の支援に関する OIE ガイドラインは [こちら](#) で入手可能です。

また、一部の国の動物病院では、個人用防護服や人工呼吸器などの必須器具を寄贈することにより、公衆衛生対応を支援しています。

獣医療業務は [必須業務\(essential services\)](#) とみなされるべきです。

国家当局は、適切なプロトコルの下で、動物の健康、動物福祉、獣医公衆衛生に関連する活動の継続を確保するために、COVID-19 対応計画及び活動の中で獣医療業務が必須であることを提唱することができます。

■ ミンクやオジロジカのような感受性動物を守るために獣医当局ができることは？

獣医当局は、ヒトと感受性動物の間での SARS-CoV-2 の感染を防ぐために効果的なリスク管理措置を実施し、動物の健康と福祉、ひいては公衆衛生を守る必要があります。

ミンク、タヌキ及びオジロジカのような感受性動物や、それらと密接に接触する人間の SARS-CoV-2 感染のモニタリングも重要です。これらの動物においては、初期の感染を発見することが困難な場合があるため、積極的なモニタリングが推奨されています。更なる情報については、[オジロジカにおける SARS-CoV-2 のモニタリングに関する声明](#) をご参照ください。

COVID-19 ウイルスに感染した人が動物と接触していると報告した場合、獣医当局と公衆衛生当局が共同でリスク評価を行う必要があります。このリスク評価の結果、動物を検査することが決定された場合、RT-PCR を使用して、口腔、鼻腔、および(または)糞便/直腸のサンプルを検査することが推奨されます。また、リスク評価では、動物から分離されたウイルスの全ゲノム配列の解読を行うことが推奨される場合があります。なお、環境や人間による検体の汚染を避けるための措置が講じられる必要があります。

SARS-CoV-2 陽性と判定された動物は、曝露されていない感受性動物から遠ざける必要があります。さらなる推奨事項については、COVID-19 のパンデミック下で、野生哺乳動物及び感受性畜産動物の関連業務に従事する人々に対する [OIE ガイドライン](#) を参照してください。

■ 動物の陽性例における獣医当局の国際的な責務は何か？

SARS-CoV-2 の動物感染は、国際獣疫事務局(OIE)の [新興感染症](#) の基準を満たしています。従って、SARS-CoV-2 の感染例は、OIE 陸生動物衛生基準に従い、世界動物衛生情報システム(WAHIS)を通じて報告されなければなりません。

また、各国は動物から分離された SARS-CoV-2 ウイルスの遺伝子配列やその他の研究結果をグローバルヘルスのコミュニティと共有することが推奨されています。

■ 生きた動物や動物製品の国際的な移動に関連する勧告はあるか？

OIE は、現在入手可能な情報及び専門家アドバイザリーグループの支援に基づき、リスク分析に

よる正当化なしに、生きた動物または動物製品の国際的な移動に COVID-19 関連の衛生措置を実施することを推奨しません。SARS-CoV-2 に感受性のある動物種の生体および製品の国際的な移動には、エビデンスに基づくリスク管理の原則が適用されなければなりません。安全な貿易のためのリスク管理の評価と実施は、OIE の国際基準（特にリスク分析、[疾病予防と管理](#)、[貿易措置](#)、[輸出入に係る手続き及び獣医学的証明書](#)）に従うべきです。包装材に関する予防措置は、環境衛生、個人の衛生対策、確立された食品衛生の適切な原則の適用以上には、重要性は示されていません。

COVID-19 と動物及び動物製品の安全な貿易に関する OIE アドホックグループの報告書は [こちら](#) です。COVID-19 に関連する国際貿易のための衛生措置の適用に関する OIE の考慮事項は [こちら](#) で参照できます。

■ OIEは何をしているのか？

OIE は、地域代表・サブ地域代表事務所、加盟国の OIE デリゲート、[OIE 野生動物ワーキンググループ](#)、[FAO](#) 及び WHO と連絡を取り、最新の情報を収集、共有しています。国際獣疫事務局 (OIE) は、本疾病の起源に関する最新の調査に携わっている専門家のネットワークと緊密に連携しています。風説や非公式な情報についても日々監視しています。

OIE はいくつかの専門家グループ（「アドホック・グループ」）を動員し、研究の優先順位、進行中の研究、及びリスク評価、管理、コミュニケーションなどを含む動物の健康や獣医公衆衛生に対する COVID-19 の影響について科学的助言を提供しています。OIE とその専門家ネットワークによって作成されたガイダンス資料については、[こちら](#) で入手可能です。

COVID-19 と、ヒト-動物のインターフェースで発生する他の人獣共通感染症との類似性を考慮して、OIE は野生動物ワーキンググループおよび他のパートナーとともに、将来の感染症の流入（スピルオーバー）現象のリスクを低減する戦略を策定するため、野生動物の取引と消費をめぐる動向とリスクに関する理解を深めるための長期的な業務計画を作成しています。

OIE はまた、COVID-19 から学んだ教訓を振り返り、国際的な危機に対する組織としての回復力（レジリエンス:resilience）を強化しています。この目的を達成するために、OIE は 2 度の活動後評価を実施し、原因を問わず、すべての脅威に対する組織としての回復力の構築を目的とした作業を開始しました。